

令和7(2025)年度

「運営に関する計画・自己評価(最終評価)」

および

「学校関係者評価報告書」

大阪市立栄小学校

令和8年3月

令和7年度 大阪市立栄小学校の教育

不確実性の高まり・未曾有の災害
自らの人生の舵取りをする力の育成
持続可能な社会の創り手
豊かな可能性の開花

エビデンス
説明責任
コスト/タイムパフォーマンス

【学校教育目標】自他を大切にし、夢と希望の実現にむけて粘り強く取り組む子どもを育てる
学力の基礎としての人権教育・人権総合学習・隠れたカリキュラム

学習指導要領【平成29年告示】
主体的・対話的で深い学び
カリキュラムマネジメント

大阪市教育振興基本計画【令和4～7年度】
全ての子どもが豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力を備え、健やかに成長し、自立した個人として自己を確立することをめざします。あわせて、グローバル化が進化した世界において、多様な人々と協働しながら持続可能な社会を創造し、その担い手となることをめざします。

○中央教育審議会答申【令和3年1月26日】
「令和の日本型学校教育」の構築を目指して
個別最適な学びと協働的な学び、GIGAスクール構想
○中央教育審議会諮問【令和6年12月25日】

最重要目標1 安全・安心な教育の推進
（1）安全・安心な教育環境の実現
（2）豊かな心の育成

最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上
（3）幼児教育の推進と質の向上
（4）誰一人取り残さない学力の向上
（5）健やかな体の育成

最重要目標3 学びを支える教育環境の充実
（6）教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進
（7）人材の確保・育成としなやかな組織づくり
（8）生涯学習の支援
（9）家庭・地域等と連携・協働した教育の推進

児童の実態：本市平均より低い学力、日本語指導
基本的な生活習慣・学習規律のさらなる定着
自己肯定感・自尊感情の向上
遅刻・欠席

保護者の実態：保護・要保護家庭
若い保護者/ひとり親家庭
多文化・多様性、言語の課題
負の連鎖

一人ひとりを大切にしたい教育の推進
命を大切にしたい。いじめのない学校
つながり、仲間づくり、平和教育
たてわり活動・集団登校・あいさつ習慣
インクルーシブ教育の推進…共に育ち、共に学び、共に生きる・合理的配慮
多文化共生教育、やさしい日本語
ジェンダー平等教育・LGBTQへの理解
SDGsの取組

地域の実態：見守り活動、浪速人権・同和教育推進協議会
なにわ人権教育ネットワーク・プチコスモス
なにわ読み書き教室
子ども食堂、外国につながるの家庭

学校の実態：人権感覚・人権に関する知識理解の向上
働き方改革、若い・経験の浅い教職員
児童理解力・指導力・授業力の向上
学校統合に関する準備・対策

人権教育・不易流行

基礎基本の学力：漢字・計算（ザクザクタイム）
授業研究/国語・メンター研修
授業改善・チーム対応/教科担任制を視野にした取組
読書活動・朝読ボランティア・ミニミニ図書館
総合的読解力の育成/読解力…すべての学習の基礎となる
個別最適な学び・ICTを活用した教育の推進
教え合い・学び合い…協働的な学習
保・小・中の連携…五校の取組

歯みがき習慣
食育の推進
こころの天気
性教育の推進
多様な遊び、環境整備
強い体づくり…休み時間の活用
競い合い…ドッジボール、かけあし、縄跳び
フレックスカップアップナニワ
チームワークとルール

大阪市立栄小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

I 学校運営の中期目標

現状と課題

教育目標を「自他を大切にし、夢と希望の実現に向かって粘り強く取り組む子どもを育てる」と掲げ、これまで人権教育を基底として取組を推進してきた。その結果、児童には「自尊感情の高まり」「他者理解の高まり」などの心が育まれてきた。これは、先達が築き上げてきた歴史と伝統を脈々と受け継いできた成果であり、他校にはない本校の「強み」であり、さらに根幹となっていくものである。開校以来、150年以上のあゆみの中で、地域や保護者の方々の温かい支えに感謝して、人権・自治・自立をキーワードに栄小学校への愛着や所属感、自己のアイデンティティを大切にされた教育を推進してきた。

人権教育に関しては、「一人ひとりを大切にされた教育」を推進し、命を大切にし、いじめのない安全・安心な学校をめざしている。特に朝の集団登校・あいさつの習慣に関しては、地域の見守り隊の方々、PTAの協力を得ることで、地域と一体となって取り組むことができている。毎朝、子どもたちの登校の様子を見守っているが、「集団登校ができていない」「朝ご飯を食べていない」とアンケートで答える児童も、10%強に至っている。

「浪速地域ネットワーク事務所」等関係諸機関との連携を密に図り、情報を共有することで、全児童を取り残すことにならないようにしている。また教職員の人権研修についても計画的に実施し、校内外の研修、新転任者への研修等、浪速人権・同和教育推進協議会との連携を図りながら、教職員それぞれの人権感覚を磨き高めるようにしている。本校の実績として、令和3年度から、学校で認知したいじめの解消率を100%にし続けることができている。今後も学校・地域・保護者が一体となって、児童の豊かな心の育成に務め、安全・安心な教育を推進していく。

「共に学び、共に育ち、共に生きる」インクルーシブ教育については、一人ひとりの児童の状況に応じて合理的配慮を進め、日々取り組んでいる。個別の支援計画は、学期末に全教職員で内容を把握し、環境の整備や効果的な働きかけができるように共有し、障がいのあるなしに関わらず、「一人ひとりの児童がつながる」教育をめざしている。令和6年度の児童アンケート「人にはそれぞれ違いがあっていいと思う」と肯定的に答えた児童は100%に達した。今後もすべての児童が互いを認め合い、生き生きと活動することができる教育環境を生み出していくようにする。

多文化共生教育にも重点を置く。外国につながる児童・保護者の割合は3割を超え、その国籍も様々である。家庭内の言語が日本語と異なるケースもあり、児童の言語環境を捉えたきめ細やかな配慮が欠かせない。学校の様子や連絡、お知らせをやさしい日本語で発信したり、配布物に多言語化処理を施したりしながら、多文化・多様性に適応できるようにしている。学習上・生活上配慮を要する児童や家庭も多く、児童の実態や様子を共有する場を設け、児童・保護者に寄り添った対応ができるよう、全教職員で共通理解を図っている。

学力については、令和4年・5年度の大阪市小学校学力経年調査の結果において、3年生～6年生の国語の平均正答率が大阪市の平均正答率より低い。特に、漢字や文法などの「基礎」の正答率よりも、考えや感想を表す「活用」の正答率が低い傾向にある。その中で令和6年度の3年生の国語の平均正答率は、大阪市平均を上回るという結果を得た。これは、積み重ねてきた学力向上の取組が、成果として現れた結果であると考えられる。

算数においては、基礎・基本となる学習内容の定着を図ることができつつある。令和5年度の調査では、5年生・6年生の平均正答率が大阪市平均を上回った。また、令和6年度の調査においても、3年生と5年生が大阪市平均を上回り、令和4年度以前に比べて、学力の定着が見られている。しかしながら、日常生活の問題を解決するために、算数で学習したことをもとに、目的に応じて数量の関係に着目し数の処理の仕方を考えたり、基準量、比較量、割合の関係や、その数量関係について考察したりすることには、依然として課題が残っている。それらを改善するために「ザクザクタイム」「少人数学習・教科担任制」「放課後学習の機会の確保」等、実態に応じた工夫を行い、学習習慣を確立していくことをめざす。

読書習慣については、令和6年度アンケート「本をよく読むようにしている」と肯定的に答えた児童は58%であり、過去の調査と経年比較をしても、その割合が伸びておらず、本校の課題の一つである。浪速図書館と連携して学級文庫を充実したり、ボランティアによる朝読書の活動、雨の日や放課後に読書に親しめるミニミニ図書館を整備したりしながら、読書の啓発に向けて工夫している。朝読書の時間に教職員も一緒に読書を行い、児童と読書活動が共にできるように、読書習慣の確立に向けた取組をいっそう推進する。

体力・健康面においては、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果より、令和6年度の児童アンケートで「体を動かすことが楽しく、すすんで運動している」に最も肯定的に答えた児童は62.3%であり、令和5年度より2ポイント以上改善することができた。多様な遊びを各学年で取り入れ、それらが実践できる環境整備を進めながら、今後もさらに体力向上の機会を確保する。歯みがきの習慣が十分ではないというアンケート結果から、そうじ後の休み時間を活用し、歯ブラシの管理を徹底しながら、歯みがきの習慣化も進めていく。

学力・体力の向上と同時に、教育環境の充実も図っていく。1人1台端末を全児童が適切に扱うことができるようにするために、コンテンツの活用を図る。児童自身が、学習内容に応じてデジタル教科書やデジタルドリルを進めていくことができるように、環境を整備する。

教職員の働き方改革については、業務や会議を精選することにより、教員が児童と関わる時間を確保したり、教材研究の時間を保障したりしている。昨年度まで、時間外勤務時間数は少しずつ減少している。定時退勤とするゆとりの日を増やし、ワークライフバランスを考慮し、誰もが働きやすい職場環境となるように取組を推進していく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ① 令和5年度～7年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を毎年97%以上にする。

R3	R4	R5	R6	R7
100	100	100	100	100

- ② 令和5年度～7年度の小学校学力経年調査、及び校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。

R3	R4	R5	R6	R7
97.3	94.4	92.3	92.9	90.0

- ③ 令和5年度～7年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や希望を持っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を令和5年度（75.9%）より向上させる。

R3	R4	R5	R6	R7
86.6	70.0	75.9	69.0	73.3

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 令和7年度の全国学力・学習状況調査の標準化得点を100以上(平均以上)にする。

	R3	R4	R5	R6	R7
国	99	91	98	93	86
算	99	84	101	87	91

- ② 令和5～7年度の小学校学力経年調査における国語および算数の標準化得点を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント以上向上させる。



	国語					算数				
	R3	R4	R5	R6	R7	R3	R4	R5	R6	R7
R3卒	97					117				
R4卒	92	96				99	99			
R5卒	92	98	99			89	100	101		
R6卒	92	97	97	97		91	99	103	99	
R7卒		96	99	96	86		96	99	101	91

- ③ 令和7年度の小学校学力経年調査における国語および算数の標準化得点を97以上にする。 **国語 94.0** **算数 95.1**

- ④ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 75%以上にする。

R3	R4	R5	R6	R7
71.7	88.9	60.1	65.5	68.5

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 90%以上にする。

R3	R4	R5	R6	R7
			0	2

- ② 第 2 期「学校園における働き方改革プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 68%以上にする。

R3	R4	R5	R6	R7
	56.52	66.67	58.33	87.5

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ① 小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を95.6%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
77.8	中止	93.3	88.9	95.5	80.9	84.7

- ② 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度(1.06)より減少させる。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
4.02	2.80	2.21	1.56	1.06	1.04	0.49

- ③ 今年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や希望を持っていますか」の項目について、「あてはまる・どちらかといえばあてはまる」と答える児童の割合を75%以上にする。 **73.3%**

- ④ 今年度末の本校児童アンケートにおいて、次の項目について「よくあてはまる・だいたいあてはまる」と答える児童の割合を合わせて

- (a) 「集団登校がきちんとできている」において、87%以上にする。 **82.7%**
 (b) 「学校のきまりやルールを守っている」において、93%以上にする。 **93.7%**
 (c) 「自分には良いところがあると思う」において、88%以上にする。 **86.4%**
 (d) 「自分からすすんであいさつする」において、85%以上にする。 **80.8%**

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を50%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
53.0	50.5	42.6	44.8	36.5	37.6	40.0

- ② 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント以上向上させる。

	国語					算数				
	R3	R4	R5	R6	R7	R3	R4	R5	R6	R7
R3卒	97					117				
R4卒	92	96				99	99			
R5卒	92	98	97			89	100	104		
R6卒	92	97	92	92		91	99	112	97	
R7卒		96	95	91	98		96	96	103	100

- ③ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 75%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
40.7	中止	71.7	88.9	60.1	65.5	68.5

- ④ 今年度の全国学力・学習状況調査の標準化得点を 95 以上にする。 **88.8**
- ⑤ 今年度末の本校児童アンケートにおいて、次の項目について「よくあてはまる・だいたいあてはまる」と答える児童の割合
- (a) 「給食後の歯みがきをきちんとしている」において、肯定的に回答する児童を 85% 以上にする。 **88.8%**（令和 6 年度 75.3%）
- (b) 「給食で苦手なものでもがんばって食べるようにしている」において、90%以上にする。 **90.6%**（令和 6 年度 92.3%）

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 90%以上にする。

R3	R4	R5	R6	R7
			0	2

- ② 第 2 期「学校園における働き方改革プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 68%以上にする。

R3	R4	R5	R6	R7
	56.52	66.67	58.33	87.5

- ③ 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 65%以上にする。 **60.9%**（令和 6 年度 61.8%）
- ④ 今年度末の保護者アンケートにおける「保護者は、手紙やホームページ、ミマモルメを見て、学校のことを確認している。」の項目について、「よくあてはまる・だいたいあてはまる」と答える保護者の割合を 90%以上にする。 **91.6%**（令和 6 年度 84.2%）

3 本年度の自己評価結果の総括

【中期目標の達成状況について】

令和3年度からいじめの解消率を100%にすることができている。本校が推進してきた「一人ひとりを大切にした教育」の成果が表れ、いじめのない安全・安心な学校とすることができた。今後も学校・地域・保護者が一体となって、児童の豊かな心の育成に務め、よりいっそう安全・安心な教育を推進していく。一方で、中期目標で掲げた数値を達成できなかった項目もある。来年度以降、学校教育目標の達成に向けて改善を図っていききたい。

【安全・安心な教育の推進】

「新たに不登校になる児童の割合」については、令和7年度の比率を令和5年度から半減させることができ、中期目標の達成もできた。これまで家庭連絡や登校刺激など、個々の児童の実態に応じた支援を継続してきた結果であり、それらを見定めて支援を行ってきた成果が表れたと考える。

集団登校に関しては「きちんとできている」と肯定的に回答した児童の割合が、近年80%強となっている。中期目標・年度末ともに達成はできなかった。地域およびPTAと連携しながら取組を継続しているが、今後も固定化した遅刻児童のアプローチを継続していく必要がある。家庭連絡や家庭訪問を行いながら、きめ細かく支援を継続していくことによって、次年度以降、割合を高めていくことができるように啓発していく。

学校アンケートの「学校のきまりやルールを守っている」では、93.7%超の児童が肯定的な回答を示していて、中期目標に掲げた93%以上という数値を達成することができた。きまりを守ることの大切さを今後も伝え続け、よりよい学校づくりに向けて学校全体で取り組んでいきたい。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

児童アンケート「進んで学習することができている。」では、90%超の児童が肯定的に回答している。習熟度別指導・少人数指導・専科指導等、指導形態を工夫し、児童が主体的・対話的に学びを進める環境を整えることができているためと考える。大阪市学力経年調査では、今年度は4年生・6年生の算数科で、大阪市平均を上回る結果が得られた。校内独自の「ザクザクタイム」によって基礎学力の定着を図ってきており、今後も低学年時から漢字や計算技能について、集中的に取り組む時間を設け、基礎的・基本的な学力の定着を図っていききたい。学校アンケート「からだを動かすことが楽しく、進んで運動している」と最も肯定的に答える児童の割合は70%に届かず、中九目標を達成できなかったが、肯定的な割合全体では90%を超えている。器具や道具の充実・整備に務め、体を動かす機会の向上を図りたい。

【学びを支える教育環境の充実】

学校アンケート「図書室や教室、ミニミニ図書館などで、本をよく読むようにしている」と肯定的に答える児童の割合は60.9%であり、中期目標の65%を達成できなかった。週に2回の読書タイムや読み聞かせボランティアの活動も月に1回行うことができおり、指標は達成できている。図書委員会や学校図書館司書が季節や課題に合わせて図書の配架を工夫したり、ポップを掲示したりしている。今後も本に触れる機会を全学年に広め、読書を習慣化していききたい。

大阪市立栄小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>① 小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を95.6%以上にする。</p> <p>② 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度(1.06)より減少させる。</p> <p>③ 今年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や希望を持っていますか」の項目について、「あてはまる・どちらかといえばあてはまる」と答える児童の割合を75%以上にする。</p> <p>④ 今年度末の本校児童アンケートにおいて、次の項目について「よくあてはまる・だいたいあてはまる」と答える児童の割合を合わせて</p> <p>(a)「集団登校がきちんとできている」において87%以上にする。</p> <p>(b)「学校のきまりやルールを守っている」において93%以上にする。</p> <p>(c)「自分には良いところがあると思う」において88%以上にする。</p> <p>(d)「自分からすすんであいさつする」において85%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【 基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現 】 児童が安全に集団登校できるように指導する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地区別児童会」を各学期に1回実施する。 ・全校児童が集まる場で、集団登校について振り返る時間を毎月1回設定する。 ・集団登校の実施状況を教員で共有できる場を毎月1回設定する。 	B
<p>取組内容②【 基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現 】 児童が互いに声をかけ合い、学校の仲間として認め合えるように、たてわり活動や異学年交流を活性化させる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たてわり活動を毎月1回、異学年交流を各学年で年1回実施する。 	A
<p>取組内容③【 基本的な方向2 豊かな心の育成 】 人権教育をSDGsの視点と関連付けながら、児童の自尊感情を高めるための取り組みを行う。また、必要に応じて地域の施設を活用したり、人材を招いたりする。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の施設を利用したり人材を招いたりする活動を各学年で年1回実施する。 ・学習したことを学校全体に広める取組を各学年で年1回実施する。 ・全学年、年間1回いいところみつけを計画的に行う。 	B
<p>取組内容④【 基本的な方向2 豊かな心の育成 】 児童がすすんであいさつができるように指導する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつ運動」を各学期1回実施する。 ・水曜日に「あいさつの日」を設定する。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 指標については達成しているが、遅刻の多い児童は固定化され、家庭環境が大きく影響しているため、いろいろな取り組みや、指導、声掛けを行っても数値を上げることが難しくなっている。
- ② 毎週木曜の児童集会の時間だけでなく、各学年、休み時間や教科・行事を活用して異学年交流をすることができた。しかし、学年によって偏りが出てしまうこと、年度によって取り組み内容が違うことが気がりという声もある。
- ③ 人権総合カリキュラムを基に年間を通して計画的に取り組むことができた。また、学年での取り組みを学習発表会や平和人権集会を通して他学年へ伝えることもできた。しかし、児童の自尊感情を高める取り組みとしては足りていない。
- ④ 指標通りに取り組むことができた。今年度は、児童朝会の担当が毎週水曜の「あいさつ名人」の発表を行った。楽しみにしている児童も多く、あいさつすることへの意識付けになっている。一方で、相手や時間に合わせたあいさつ、「すすんで」あいさつするには、至っていない。

次年度への改善点

- ① ・遅刻児童のいる時間帯での集団登校指導。(水曜日の放送や地区別児童会など)
・集団登校強調週間を児童に意識させるものにする。
・班長会議の流れを変える。
- ② 毎週木曜の児童集会と年1回の異学年交流は、引き続き取り組みをしていく。各学年の異学年交流の取り組みについては、今年度の内容を聞き取り、次年度の学年フォルダに入れ参考にできるようにする。
- ③ 児童の自尊感情を高めるための取り組みとして「いいところみつけ」を今年度と同じように自身のがんばりを自覚できるような形で進める。実施回数を増やしたり、実施方法の丁寧な伝達に努めたりすることで、日常的に児童自らが自身のがんばりに気付けるようになることをめざす。
- ④ 毎週水曜の「あいさつ名人」、各学期に1回の「あいさつ週間」を続けていくとともに、時間や相手に合わせたあいさつについては、大人が子どもの見本となり、積極的にあいさつをする姿を見せていく。

大阪市立栄小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を50%以上にする。</p> <p>② 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント以上向上させる。</p> <p>③ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を75%以上にする。</p> <p>④ 今年度の全国学力・学習状況調査の標準化得点を95以上にする。</p> <p>⑤ 今年度末の本校児童アンケートにおいて、次の項目について「よくあてはまる・だいたいあてはまる」と答える児童の割合</p> <p>(a) 「給食後の歯みがきをきちんとしている」において肯定的な意見を85%以上にする。</p> <p>(b) 「給食で苦手なものでもがんばって食べるようにしている」において肯定的な意見を90%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【 基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 】 研修の充実と授業研究の実践により、教員の指導力向上を図る。	
指標 ・全教員が様々な授業形態の工夫に取り組みながら、年1回以上の校内公開授業を行う。研究授業の際には指導案検討会と討議会を実施する。	B
取組内容②【 基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 】 学習意欲の向上をはかる。	
指標 ・学年末に行う学校アンケートにおいて、「進んで学習することができている。」の項目において、「よくあてはまる・だいたいあてはまる」と回答する児童の割合を昨年度より増やす。	B
取組内容③【 基本的な方向5 健やかな体の育成 】 歯みがきの習慣化に向けて、日々の指導と家庭への啓発を行う。	
指標 ・学年の実態に応じた歯の指導を年1回設定する。 ・給食後の歯みがきタイムを全校で5分間実施する。また、丁寧に歯を磨けている児童を見つけ「歯の日」に合わせて発表する。 ・6月、11月に「歯みがき週間」を設定し、歯の大切や正しい歯の磨き方について学習を行う。 ・夏季休業前、冬季休業前に、歯みがきカレンダーを各1回発行する。	A
取組内容④【 基本的な方向5 健やかな体の育成 】 体力向上のために、運動する機会を増やす。	
指標 ・かけあし月間やなわとび月間を年1回設定し、体育の学習を中心に運動する児童を増やす。 ・運動や遊びを紹介する取り組みを各学期に1回設定する。	A
取組内容⑤【 基本的な方向5 健やかな体の育成 】 食の大切さを指導するとともに、家庭への啓発を行う。	
指標 ・各学年で「食」に関する学習を年1回以上実施する。 ・給食だよりを毎月1回発行する。	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 年度当初の予定通り、計画的に公開授業及び研究授業を行うことができた。授業後の党議会においては活発に意見の交流ができています。一方で、指導案検討会では意見が出づらいう課題も残った。
- ② アンケートでは肯定的な回答をする児童の割合は増加した。また、ザクザクタイムも昨年度よりも実施回数を隔週に減らしながらも、各学年が工夫して取り組んでいた。しかし、何をもちて意欲の向上を指すのかがあいまいだったという反省もあった。
- ③ 指標については、すべて実施することができた。歯みがきタイムに音楽を流すことで、給食後に歯みがきをする児童が増えたと考える。また、歯みがき週間や歯みがきカレンダーなどの取り組みにも、昨年度に比べて意欲的に取り組む姿が見られた。
- ④ 昨年度よりも教員が休み時間に運動場に出ることで、一緒に体を動かして遊ぶ児童が増えた。また、異学年でサッカーやおにごっこ、ドッジボールなどをして一緒に遊ぶ姿も見られた。その結果、児童アンケートの「からだを動かすことが楽しく、進んで運動している。」の項目において、肯定的な回答が90%を超えた。(昨年度より5%上昇)
- ⑤ 指標については、すべて達成することができた。また各学年で「食」に関する指導を2回実施し、年度末のアンケートにおける「給食で苦手なものでもがんばって食べるようにしている」の項目において、肯定的な回答をする児童が90%以上になった。しかし、家庭への啓発が十分にできていないため、引き続き給食だより等を配布し、見ていただけるようにしていく。

次年度への改善点

- ① ・事前に指導案を熟読しておく
・検討会で何を聞きたいのか、授業者が指導案に明記しておく。
- ② ザクザクの時間の使い方の検討をしていきたい。隔週実施で良かったのか、昨年度のように毎週の実施のほうが良いのか、またデジタル教材の活用を検討していく。
- ③ 保護者への啓発も行っていく。また、引き続き歯ブラシを忘れる児童、持ってくるできない児童への対応を考え、実施していく。
- ④ 外に出ていない児童への遊びの紹介や手段の提供方法を考える。
- ⑤ 喫食中の姿勢や当番の身だしなみが気になるため、来年度は重点的に指導していく

大阪市立栄小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>① 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 90%以上にする。</p> <p>② 第 2 期「学校園における働き方改革プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 I を満たす教職員の割合を 68%以上にする。</p> <p>③ 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 65%以上にする。(令和 6 年度 61.8%)</p> <p>④ 今年度末の保護者アンケートにおける「保護者は、手紙やホームページ、ミマモルメを見て、学校のことを確認している。」の項目について、「よくあてはまる・だいたいあてはまる」と答える保護者の割合を 90%以上にする。(令和 6 年度 84.2%)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【 基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進 】 児童が日常的にICTを活用する場面をつくる。</p> <p>指標 ・児童の8割以上が、学習者用端末を日常的に活用する。</p>	A
<p>取組内容②【 基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり 】 業務内容の精選を図り、教員一人当たり平均時間外勤務時間を減らす。</p> <p>指標 ・教育課程編成委員会を年1回実施し、学校行事の精選や見直しを行う。 ・ゆとりの日を2週間に1回程度設定する。</p>	A
<p>取組内容③【 基本的な方向8 生涯学習の支援 】 読書タイムの活用、図書室の効果的な利用、学級文庫の充実、読み聞かせの取組を行い、読書習慣の定着を図る。</p> <p>指標 ・朝の読書タイムを週2回以上実施する。 ・地域ボランティアと連携して読み聞かせを月1回実施する。</p>	A
<p>取組内容④【 基本的な方向9 家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】 学校・家庭・地域諸団体が連携し、子どもたちが安心して過ごせる地域をつくる。</p> <p>指標 ・PTAや地域と連携した取組を年3回実施するとともに、学校HPや学校だよりなどを活用し、取組の発信を行う。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 新端末になり立ち上がりも早く使い勝手が向上したことに加え、教員の声掛けや指導などにより端末を使用した学習や休み時間でも端末を使用した過ごし方が定着しつつある。特に Google クラウドを使用した取り組みが増えてきている。
- ② 今年度から 18:30 退勤という時間の設定を行い、時間を守ろうという意識をもつことができた。また、年度途中には改善できる点を探し出し、会議を削減したり SKIP を有効的に活用したりすることができた。その結果、昨年度よりも全教員の累計残業時間が 4 時間ほど短くなった。
- ③ 朝の読書タイムを昨年度の 2 回から 3 回に増やしたことで、読書をする習慣が定着してきている。また、時間があるときには、各学年の担任・担当が児童と一緒に本を読むことも行った。児童アンケートの「図書室や教室、ミニ図書館などで本をよく読むようにしている。」の項目においては、肯定的な回答が昨年度より 10% 上がった。
- ④ 年度途中で制約ができてしまい、なかなか更新できなかった時期もあったが、撮影用端末を導入してからは各学年週に 2 回の更新を目標に取り組むことができた。栄っ子祭、運動会、学習発表会、フレンズカップ、地域の方への感謝を伝える会などは、PTA や地域と連携して行うことができた。

次年度への改善点

- ① 新端末を使用した取り組み内容を伝えていく。
- ② 管理職の退勤時刻が遅い傾向があるため、業務負担軽減と、退勤時刻の改善に向けた取組(戸締りは交代制など)を進めていく必要がある。また、仕事を持ち帰らなければならないなど、一部の教員に負担がいつてしまわないような業務の振り分けを考えていく。
- ③ 次年度も引き続き読書タイムや隙間時間の読書を続けていく。また、学級文庫の充実、低・中・高学年で学級文庫の棚の入れ替え、浪速図書館との連携による貸し出しを行い、様々な本と触れ合える機会をつくる。
- ④ 「学校・家庭・地域諸団体が連携し、子どもたちが安心して過ごせる地域をつくる。」という部分において、避難訓練などで有事に備えた実践的な取組として、地域と連携した訓練や活動を行うことも検討していく。また、PTA 役員へなっく下さる保護者や栄っ子祭に協力して下さる保護者が少なくなっくしまっくしているため、懇談会など様々な場面で声掛けをしていくようにする。